

一

次の各問いに答えなさい。

問一 次の各文の——線部のカタカナを漢字に、漢字はひらがなに直しなさい。

- 1 ショメイ活動に協力する。
- 2 長いギョウレツができる。
- 3 試合にサンカする。
- 4 元気にコガイで遊ぶ。
- 5 管楽器を奏でる。
- 6 入念に確認する。
- 7 技を伝授する。
- 8 所要時間を計る。

問二 次の四字熟語の空欄に入る適切な漢字を、あとのア〜クからそれぞれ選んで記号で答えなさい。

- 1 臨□応変
- 2 三□一体
- 3 試行錯□
- 4 □果応報
- 5 □尾一貫

ア 誤 イ 機 ウ 首 エ 困 オ 位 カ 実 キ 危 ク 因

二

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。

日々私たちは非常に多くの写真を目にしていますが、そのなかでも飛びぬけて多いのがポर्टレイト^Aであることは間違いないでしょう。私たちは人の顔を撮らずにはいられないし、撮られない^Bでもいられない。

ことに高画質のカメラを搭載したスマートフォンが普及してから、一人あたりの写真を撮る量がめざましく増えたと言われています。じつさい、富士フィルムの調べでは一つの家庭で一年間に溜まる^た写真はおよそ一〇〇〇枚に及ぶとなっています。またSNS（ソーシャルネットワークサービス）のインスタグラムに投稿される写真は、一年間でおよそ二九一億枚というあまりに膨大なもの^{ぼうだい}。そこにはいったいどのような写真が多いのか。ときどき、それが気になって私はシュウイ^①の人に尋ねてみる^{たず}ことがあります。

「どんな画像があなたのスマートフォンや携帯電話に入っていますか？」

日々の食事とか旅行した場所の風景なども多いのですが、友人や家族、そして恋人などのポर्टレイトのほう^{ほう}がたいはいは上回っているようです。とくに若い世代ほど、ポर्टレイトをたくさん持っていました。

Ⅰ 平成二四年度の「高校生の消費生活と生活設計に関するアンケート調査」（実施：公益財団法人消費者教育支援センター、公益財団法人生命保険文化センター）を見ると、女子高生のお小遣いの使い道の第一位はプリクラとなっています。

プリクラといってあなどるなかれ、第三章で見えるようにこれ^これもりっぱなポर्टレイト写真です。

友だち同士や自分の姿を写した画像をストックし、交換しあう。その行為を通じて互いの関係性を確認したり、ときには共感をしたりしながら絆^{きずな}を強めて安心感を得る。そんな行為は自分という存在の不確かな思春期にあつて、とても重要なことのように思えます。いや、たとえば思春期を過ぎて、大切な誰かの写真を、いわばその身代わりとしていつも自分の側に置きたいと思うのは当然のことでしょう。

私の知人に視覚障害者に写真を指導している人がいます。彼によると、先天的に視力を失っている人であっても、家族が写った写真に対する愛おしさは健常者と変わることがないと話してくれました。

② 「見えないのだから家族アルバムなんて意味がないだろう？」

そんなふうに言われるとひどく傷つくのだと。

一九世紀に写真が誕生した時から、人はポートレートに写された人の魂たましいの断片を感じ続けてきました。Ⅱ身代わりとして持っているというだけで、とても安心感を覚えるものなのです。

もちろん、写真のかたちは過去と現在では大きく変わっています。二一世紀の初頭までは印画紙に焼き付けられたものが写真の主流であり、それを一枚ずつアルバムに収めてホカ③ンしていました。Ⅲ現在はデジタル画像データになりました。機材の役割も変わり、スマホのよう

な小さなデジタルデバイスが高性能カメラ、画像を加工できる実験室（ラボ）、分厚いアルバム、インターネット上でそれを共有するコミュニケーションツールとしての役割を兼ね備えています。

とはいえ、このような変化を経てもなお写真がもたらす役割、ことにポ④ートレイトの大切さは基本的な部分においては変わっていないと思えるのです。

（鳥原学『写真の中の「わたし」ポートレイトの歴史を読む』より）

問一 線①～③のカタカナを漢字に、漢字はひらがなに直さない。

問二 線A「ポートレート」の説明として適切なものをあとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 人物を主題にして撮影されたもの。
- イ 自分で自身の姿を撮影したもの。
- ウ インスタグラムに投稿するために撮影したもの。
- エ 日々の食事とか旅行した場所の風景を撮影したもの。

問三 — 線部B「れない」と同じものをあとのア〜エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア このキノコは食べられない。
- イ 他人の人から笑われないように注意する。
- ウ 予定では、大統領はその日に首相とは会われない。
- エ どのような事情があったのか、聞かずにはいられない。

問四 — 線部C「それ」が指し示すものとして適切なものを、あとのア〜エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア スマートフォンが普及してから、一人あたりの写真を撮る量が増えたこと。
- イ 一つの家庭で一年間に溜まる写真はおよそ一〇〇〇枚に及ぶこと。
- ウ インスタグラムに投稿される写真は、一年間でおよそ二九一億枚であること。
- エ スマートフォンや携帯電話で撮ったものにはいったいどのような写真が多いのかということ。

問五 空欄 I II III に入る接続詞として適切なものを、あとのア〜オからそれぞれ選んで記号で答えなさい。

- ア ところが
- イ なぜなら
- ウ たとえば
- エ つまり
- オ だから

問六 — 線部D「スマホのような小さな小さなデジタルデバイス」とありますが、スマホの登場によって写真をとりまく環境はどのように変化しましたか。本文中より、**二十一字**で抜き出しなさい。

問七 ——線部E「ポートレイトの大切さは基本的な部分においては変わっていない」とありますが、それはどういうことか、本文中のことばを使って**七十字以内**で説明しなさい。また、解答には次の語句を必ず使いなさい。

安心感

問八 本文の説明として最も適切なものをあとの**ア～エ**から一つ選んで記号で答えなさい。

- ア** 私たちはスマホやカメラで写真を撮ることをとても好むが、風景写真は全く撮らない。
- イ** 視覚障害者の人も、家族写真を大切にしようとする気持ちは健常者と変わることがない。
- ウ** スマホは、写真を加工する実験室・アルバム・共有ツールや、印刷機として使われるようになった。
- エ** 筆者は、SNSに対して批判的^{ひはんてき}で、写真をインターネット上に公開することに反対している。

三

次の文章を読んで、あとの問いに答えなさい。(設問の都合上、本文を一部改めた部分があります。)

ひとまず手紙のことは考えないことにきめて、弥は小さいころにいったおばあちゃんの家のことを、あれこれ思い出してみました。

八の日の縁日。クワガタをつかまえた雑木林。小鮎のおよぐ川。ゆつくりとふりこをうごかす柱時計。ゆがんだ天井の木目。つめたい水をくみだす井戸。そして、やさしい声でしずかに話すおばあちゃん。

心細さとなつかしき、ゆううつな気分と期待とが、胸の中でおしくらまんじゅうをしているようです。

電車は無人の駅をすぎていきます。駅にとまっても、お客はいっこうにふえません。四つめの駅で後ろの車両のおくさんがおけると、電車の中には、とうとう弥ひとりごとりのこされました。

弥ひとりごとりをのせて、小さな電車は走りつづけけます。

線路の両わきにおしよせる緑は、しだいにいきおいをまし、山においてはいよいよ強くなってきます。いくつものトンネルをくぐりぬけ、深くひだをよせあう山並みをつらぬくようにして、電車は走っていきました。

始発からかぞえて七つめの駅が稲荷山です。でも、その駅と駅のあいだが、やたらに長いのです。林の中にかすかな夕暮れの気配がただようころになって、電車はやつと六つめの小さな駅にたどりつこうとしていました。

二組の線路にはさまれた細長いホームは、緑の中のはなれ小島のように、こんな家もない場所に駅をつくって、だれかの人がいるのだろうかと、弥はふしぎに思いました。

電車がゆつくりとホームぎりぎりいっぱいにとまると、かしいだ駅看板の字がよめました。

“鶯の森”

つぎの駅は“稲荷山”と書いてあります。弥はほつとしながら、シートにほうりだしてあったズックかばんと紙ぶくろを、きちんとじぶんの横にひきよせました。

あとひといき。もうつぎの駅が、おばあちゃんの町です。

車掌しゃしょうさんのホイッスルが高らかにひびいて、目の前のドアがプシュッと音を立てたそのときです。とじかけたドアのあいだをすりぬけて、ひとりの男の子が電車にかけこんできました。

弥は、だれもいないとばかり思っていたホームから、いきなりお客がのりこんできたので、ちよつとおどろいて男の子をながめました。年かっこうは、弥とちようどおなじぐらいでしょうか、白いよれよれとしたランニングシャツから、よく日に焼けた顔とうでがつきでています。のびきったまるいえりからのぞくひよろ長い首。その上にのっかる顔は小さく、あごがするどくがっていました。

その子のほうも、さつきから、細い目のはしでじつと弥を見ています。

走りだした電車にあふれる風の中で、やがて男の子は **I** をひらきました。

「おまえ……、どこいくんだ？」

B

はげしい風にじゃまされながら、弥は短くこたえました。

「ふうん」

人の顔をアじろじろながめて、しつれいなやつです。

「たったひとりで、稲荷山なんかへ、なにしにいくんだ？」

——大きなおせわだ——と心の中で思いながら、弥はこたえました。

「おばあちゃんちにいくんだよ」

「おばあちゃんち？」

男の子は、細い目をもつと細めるようでした。それから急に、はっとしたように顔をあげ、口もとをにやりとゆがめました。

「おまえのおばあちゃんち……、ひよつとして、お松まつちゃんのことか？」

「え？」

弥は、思わず男の子の顔を見かえます。たしかに弥のおばあちゃんは、安倍松子あべまつこという名前です。でも、八十近いおばあちゃんのことを、どうしてこの子は、「お松ちゃん」なんてよぶのでしょうか。

「な？　そうだろ？　おまえのおばあちゃんて、あのお松ちゃんだろ？」

「きみ……、だれだ？　おばあちゃんのしりあい？」

こたえるかわりに、弥はたずねかえました。

「おれかあ？」

C 男の子のにやにやわらいは、いよいよ顔いっぱいひろがりました。

「おれは、オキ丸」

そういつて男の子が目を大きく見ひらくと、まぶたのかげにいままでかくされていた、うすい色の瞳ひとみがすがたをあらわしました。

電車が木立のあいだをぬけたのか、まばゆい光が車両の中にどつとさしこんできます。明るい光の中で、男の子の瞳は金色にかがやきました。

弥は、金色の目に見すえられたとたん、背すじがぞくりとなって、あわてて足もとに目をそらしました。

II

にかたむく太陽にてらされて、

男の子の影かげが車両のゆかにくつきりとびています。その影を見た弥は、あつといきをのみました。あごのどがった細長い男の子の影法師は、人間というより、よほどキツネじみているではありませんか。

おどろいた弥が、もう一度目をあげようとしたそのとたん、電車はいきなりまっ暗な闇やみの中に飛びこみました。I ごとおおうなる風と闇につつ

まれて、弥の心臓はでんぐりがえりそうになりました。ひっしに目をこらすと、闇のゆくてには、小さなまるいトンネルの出口が見えています。

いきをのんで小さな光を見つめる弥の耳もとで、男の子の声がささやきました。

「おい。そのうち、遊ぼうな」

弥は闇の中を見まわします。出口の光が大きくなって、電車はまた光の中に飛びだします。頭ウがくらくらするようなまっ白い光の中で、ぼんやり車内をながめた弥は、「あつ」と小さくさけびました。

あの男の子のすがたが見えません。もう一度、よくあたりを見まわしてみます。立ちあがったのびあがり、後ろの車両ものぞいてみました。やっぱり、それでも、あの子はいません。人気のないホームから、とつぜん弥の目の前にあらわれた男の子は、III とともに、電車の中から消えうせてしまったのです。

電車はなにこともなかったように、線路の先に見えるホームへとすべりこもうとしていました。

スピードがゆるまり、まどの外のけしきがとまると、そこに“稻荷山”と書かれた駅看板が立っていました。
ドアがひらきます。風がふきぬけます。弥は両手に荷物をかかえあげ、ひらいたドアからゆらゆらとホームに出ました。

(富安陽子『キツネ山の夏休み』より)

問一 ― 線部①②③のことばの意味として、最も適切なものをそれぞれあとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

① おしよせる

ア 片方に寄せる イ はばを広げる ウ はばを狭める エ 迫ってくる

② かしいだ

ア 真新しい イ 大きな ウ 傾いた エ まっすぐな

③ 目をこらす

ア じっと見る イ ぼんやり眺める ウ 驚いて目を丸くする エ 目をつむる

問二 ――線部 **A** 「弥はほっとしながら」とありますが、それはなぜか。最も適切なものをあとの **A**、**E** から一つ選んで記号で答えなさい。

A 慣れない電車の中で他のお客さんがいなくなり、ようやくくつろげると思ったから。

I 見知らぬ土地から、自分の見慣れた場所に来たことで安心したから。

ウ 窓から入ってくる山や森のにおいが気持ちよくて、気分が良くなったから。

E 一人で心細かったが、ようやく目的地に到着しそうなので安心したから。

問三 空欄 **I** **III** に入る語句として最も適切なものをあとの **A**、**E** からそれぞれ選んで記号で答えなさい。

I **A** 目 **I** 口 **ウ** 手 **E** 心

II **A** 東 **I** 西 **ウ** 南 **E** 北

III **A** 音 **I** 風 **ウ** 光 **E** 闇

問四 空欄 **B** に入る適切な語句を本文中より三字で抜き出さなさい。

問五 ……線部 **A**、**E** の表現について、次の問いに答えなさい。

① **A**、**E** の中で表現方法として、種類の違うものを一つ選んで記号で答えなさい。

② ①で選んだ表現が、他の表現とどのように違うのか説明しなさい。

問六 — 線部C 「男の子のにやにやわらいは、いよいよ顔いっぱいにひろがりました」とありますがそれはなぜですか、説明しなさい。

問七 とたんとありますが、本文と同じ用法の「とたん」という言葉を使って、短文を作りなさい。ただし、文章には主語と述語を必ず書きなさい。

問八 本文の特徴を説明したものと**間違っているもの**をあとのア～エから一つ選んで記号で答えなさい。

- ア 電車から見える都会や田舎の風景を描くことで、それぞれの風景の違いをはっきりと描いている。
- イ オキ丸との不思議な出会いは、これから二人の関係が始まることを予感させるものである。
- ウ 本文から、主人公の弥が夏休みに一人で田舎の祖母の家に向かっていることが分かる。
- エ ひらがなが多用されていることによって、文章全体が柔らかい印象を与えている。

問題は以上です。